

車内アナウンスで地域の魅力を伝える学生



## 木綿街道や田園風景 一畑電車沿線の魅力

# 学生が車内アナウンス

景観生かした  
地域活性化  
連携講座の成果発表

地域の資源を教育に生かす山陰両県5大学の連携プログラムで、一畑電車沿線の景観を生かした地域活性化に取り組んだ学生7人が5日、宍道湖畔を走る車内で成果発表会を開いた。貸し切りの臨時電車に揺られながら、見どころや撮影スポットをアナウンス。雲州平田駅では木綿街道について「むかしの雰囲気を残し、老舗の酒屋などが伝統の味を守り続けている」と、パネルも手にしながら、地域の魅力を伝えた。

(河野亜美)

山陰両県の5大学・短大が地域社会に貢献する人材の育成を目的に取り組む「大学と地域社会を結ぶ大規模連携ソーシャルラーニング」の一環。島根大、県立大、鳥取環境大の1、2年生が受講し、2泊3日のフィールドワークなどを通して沿線の魅力を探った。

山陰両県の5大学・短大が地域社会に貢献する人材の育成を目的に取り組む「大学と地域社会を結ぶ大規模連携ソーシャルラーニング」の一環。島根大、県立大、鳥取環境大の1、2年生が受講し、2泊3日のフィールドワークなどを通して沿線の魅力を探った。

成果発表会には大学関係者ら30人が参加。学生は3班に分かれ、実際に一畑電車で観光案内などを行う「電車アテンダント」さながら、松江しんじ湖温泉駅―出雲大社前駅間の車内アナウンスに挑戦した。

雲州平田駅で木綿街道について説明した柴沼由和さん(20)―県立大総合政策学部1年―らはパネルを見せながら、地域の特徴を紹介。周辺を散策したといい、街道の雰囲気や特色に加え、しょうゆの味比べや機織り体験ができることもアナウンスした。

ほかにも学生は、湖遊館新駅で一面に広がる田園風景や、高浜駅で赤い鳥居がずらりと並ぶ粟津稻生神社の参道などを、お薦めの撮影スポットに挙げた。

一畑電車の石飛貴之運輸部長(63)は「学生の視点は新鮮で参考になった。通常のアナウンスにも盛り込みたい」と前向きな姿勢を示した。



# 癒やしツアー商品化

## 出雲空港50周年コンテスト



旅の訪問地を紹介する北川香菜子さん（左）と舟木香夏葉さん

### 県立大 北川さん・舟木さん提案 鎌倉、横浜で体験型観光

出雲空港（出雲市斐川町沖洲）開港50周年の記念事業で実施し、松江市浜乃木7丁目の県立大短期大学部松江キャンパスの学生が提案する「旅行企画コンテスト」の最終選考会が6日、同キャンパスであった。最優秀賞に総合文化学

科1年の北川香菜子さん（22）と舟木香夏葉さん（19）の、癒やしをテーマにしたツアーが輝き、一畑トラベルサービス（松江市千鳥町）が商品化し、11月の販売を目指すことになった。（岩井彩佳）

松江

「出雲―羽田便を使う」という条件の下、学生目線の個性豊かなテーマを設定し、5チーム計10人が訪問先の魅力を10分間の持ち時間で発表した。北川さんたちは「大切な人とゆったり巡る和みの癒

を盛り込み「親しい人と一緒に体験することで楽しい思い出になる」と強調した。コンテストは日本航空が同大に提案して実現。審査は日本航空の馬場荘一郎山陰支店長、一畑トラベルサービスの森山輝也社長ら6人を委員に、独自性や集客力などの項目で評価した。

一畑トラベルサービス商品事業部商品企画課の藤岡雄太審査委員は「一般的な観光地に体験をバランス良く盛り込んだ点と、説明の仕方が分かりやすかった点が好印象を得た」とした。北川さんらには賞状と下見用に往復航空券が贈られた。北川さんは「自信はあったが最優秀賞はびっくり」。舟木さんは「昼食にかかる時間や食べる量など現地を視察し、より多くの人に参加してもらえるツアーにしたい」と話した。

平成 28 年 9 月 7 日付・山陰中央新報

### 近藤 秀行さん（松江市）

学生だからこそ  
出来ることがある！



高校生の頃からボランティア活動に参加し、また今年の3月に東日本大震災のボランティアにも行ったことがある近藤さんは、4月に熊本地震が起き、そしてその1カ月後に熊本地震のボランティア募集が大学に来ていたことから「行くしかない」と感じ参加しました。

「益城町を車で通ったときは、町全体が歪んでいるというか、声が出ないほどの状況で衝撃的でした」と話します。

ボランティアへ行った地は益城町の隣に位置する熊本市東区。主に高齢者宅へ派遣されました。1日目は老夫婦宅へ行き、使えなくなった家電などを運ぶ作業を手伝い、2日目は外壁が崩れている高齢者宅へ。「実際行つて見ると依頼以外にも、電球の交換をしたり、草刈りをするなど細かい手伝いもしました」と近藤さん。また、早めに作業が終わると家の方と話をする機会もありました。「お話をした老夫婦の方は、元気に振る舞っておられました。『大変』という言葉をよく耳にしました。しかし、東北もですが熊本でも『また来てね』と言われ、行つて良かったと思えました。現地に行くことで分かることがたくさんあるので、またボランティアに参加したいです」と、貴重な体験をした近藤さんでした。

平成 28 年 9 月 11 日付・りびえーる 439 号



昼食の「島婦人ランチ」を撮影する県立大短期大学部松江キャンパスの学生



# 島のもてなし 温かい

「女子旅」学生モニターツアー

海の幸やしげさ節堪能

「小さな町ならではの」

隠岐郡内で観光に携わる女性で組織するロマンティック愛ランド実行委員会（沢井委員長）が企画した「女子旅プラン」のモニターツアーが12日、1泊2日の旅程で始まった。学生の意見を聞き、より良い旅企画にしようと初めて開催。初日、隠岐の食文化や民謡などに触れた県立大短期大学部松江キャンパス（松江市浜乃木7丁目）の女子学生は「小さな町ならではの温かさがある」との感想を寄せた。

（松本稔史）

## 隠岐

モニターツアーは隠岐の島町と西ノ島町が舞台。ロッキングと称した摩天崖から国賀浜までの散策などが特徴。今回は同短期大学の学生限定で募り、観光業に興味があり総合文化学科

エと白バイの炊き込みご飯

といたった家庭料理で構成する「島婦人ランチ」を食べ、沢井委員長（34）らが演奏する「しげさ節」など隠岐民謡も堪能。委員会メンバーと隠岐の印象について語り、隠岐は2度目という雲南市出身の舟木香夏菜さん（19）は「料理はフランスがとれていて非常によかったです。小さな町ならではの温かさがある」と話した。

2日目は西ノ島町へ渡り、国賀海岸付近でウオーキングなどとする予定。

実行委員会事務局の松井田さんは「大學生には感じたことをレポートしてもらう。その意見をなどを反映し、2018年度の商品化に結びつけば」と話した。



# ブラックバイトをなくすために

## 島

根労働局が先ごろ、島根大、島根県立大短期大学部、松江高専の学生計354人に実施したアルバイトの実態調査の結果を公表した。学業に支障をきたすほどの長時間労働を強いたり、適正な残業代を支払わなかったりする「ブラックバイト」が社会問題化していることを受け、島根県内の状況を把握するための調査だ。

それによると回答者の41・2%が、アルバイト先で「労働条件などのトラブル経験がある」と答えた。シフトに関する事案が全体の28・5%を占めたほか、「労働時間が1日6時間を超えても休憩がなかった」など労働基準法違反が疑われる回答も8・8%あり、「ブラックバイト」が決してよそ事ではないことが浮き彫りになった。

同労働局によると、学生がブラックバイトの被害に遭う理由の一つが、労働基準法などの知識不足。学生のアルバイト先になりやすいサービス業などでは人手不足が深刻化しており、雇用者が学生の知識不足に付け込み、無理な勤務を強いることもあるようだ。取材で接した松江市内の大学生は、アルバイト先の飲食店に週2日程度の勤務を希望したものの、週4日以上の出勤が常態化しているという。「仕事と言われたら断れないものだと思っていた」。学生が口にした一言から現状の一端がうかがえた。

雇用者側に法令順守が求められるのは言うまでもないが、学生側も働くことに対する正しい知識を身に付けることが必要だ。学生が変わることが、ブラックバイトをなくす一歩になるかもしれない。  
(堀江玄)

平成28年9月13日付・山陰経済ウィークリー 第40巻22号

**ニュース 追跡**

無理な勤務シフトなどをアルバイトの学生らに強要する「ブラックバイト」の被害が、島根県内でも発生している。島根労働局が県内の大学、短大生らを対象に行ったアンケート調査では、回答した200人の4割が、勤務時間や賃金のトラブルを過去に経験していた。人手不足をはじめ、景気悪化で親元からの仕送り額が減少していることなども要因となっている。大学や行政は相談窓口を開設するなどし、トラブル防止策を強化し始めた。

(政経部・堀江玄)

## ブラックバイト4割経験

### 島根労働局 県内学生調査

無理な勤務シフトなどをアルバイトの学生らに強要する「ブラックバイト」の被害が、島根県内でも発生している。島根労働局が県内の大学、短大生らを対象に行ったアンケート調査では、回答した200人の4割が、勤務時間や賃金のトラブルを過去に経験していた。人手不足をはじめ、景気悪化で親元からの仕送り額が減少していることなども要因となっている。大学や行政は相談窓口を開設するなどし、トラブル防止策を強化し始めた。

(政経部・堀江玄)

## 大学や行政 対策強化

島根労働局が6月、島根大、島根県立大短期大を「殺れ」なるとして授業中、眠くなる「なま」な学業に支障をきたしている実態が浮き上がった。回答者260人の41・2%が、アルバイト先で労働条件などの深刻なサービス業などでのトラブルを経験。中には「労働時間が1日6時間を超えても休憩がなかった」「準備や片付けの時に賃金が支払われなかった」など、労働基準法違反が疑われる事例も多かった。自由記述欄には「テスト期間中でもシフトが変更される」「ブラックバイトの要因は、人手不足が深刻なところだ」といった声もあつた。

島根労働局の安田幸次課長は「人手不足が深刻なところだ」として、労働時間や賃金などのトラブルが多い。学生は「準備や片付けの時に賃金が支払われなかった」など、労働基準法違反が疑われる事例も多かった。自由記述欄には「テスト期間中でもシフトが変更される」「ブラックバイトの要因は、人手不足が深刻なところだ」といった声もあつた。

「ブラックバイト」への注意を呼び掛けるチラシを配る学生。大学や行政は被害防止に向けて対策に乗り出している。松江市西川津町、島根大。

山陰同県の大学では労働関係法の専門家を紹介した講習会を開いたり、労働局は相談窓口を開設したりして対策に乗り出した。島根労働局の安田課長は「学生の半分は学業にある。バイトが過度な状況であれば、相談してほしい」と話した。



# さよなら両さん!!

## 「こち亀」連載40年終幕

## ファン別れ惜しむ

「さよなら、両さん!!」。秋本治さんの人気漫画「こち亀」の最終回を載せた「週刊少年ジャンプ」とコミックス第200巻が17日、同時に発売された。1976年から休みなく40年続いた連載の終幕に、惜しむ声があふいた。



JR亀有駅に作られた臨時の「こち亀」売り場＝17日午前

漫画の舞台となった東京・亀有の書店では、作品を買い求める愛読者が途切れず、在庫が一気に完売。JR亀有駅は同日から「こち亀」キャラクターの絵で飾られた。特別仕様となり、来訪者が驚き、楽しんでい

「こち亀」連載40周年を記念して東京・日本橋の高層ビルで開催中の「こち亀展」は、開場から4日間で早くも入場者が2万人近くに達した。茨城県ひたちなか市から来た高専1年の工藤広樹さん(16)は、読むと力が湧く作品だったという「僕にとっ



最終巻を収録した週刊少年ジャンプを手取る家族連れ＝松江市田和山町、今井書写アルプセンター山

「こち亀」最終回が掲載された17日発売の「週刊少年ジャンプ」に、作者の秋本治さんは「あの不真面目でいい加減な両さんが40年間休まず勤務したので、この辺で有給休暇を与え、休ませてあげようと思います」とのコメントを寄せた。

**「勤続40年、有給休暇を」**  
作者・秋本さん

秋本さんは「あまりにも長期の作品なので、終了しても物語は自分の中ではまだ動き続けている感じがします。だからまたいつか逢えることを信じて、これからも長い間お付き合いをお願いします」と読者への感謝の言葉を綴った。

### 山陰でも書店に続々

山陰両県の書店でも「こち亀」の特設売り場が登場し、ファンが最後の一冊を手にとって「残念だ」「2つの時代が終わった」と連載終了を惜しんだ。松江市田和山町の今井書店グループは、最終巻を載せた「ジャンプ」とコミックス第1と200巻を並べた。事前に問い合わせや予約があり、

情で両さんを語った。連載40周年を記念して東京・日本橋の高層ビルで開催中の「こち亀展」は、開場から4日間で早くも入場者が2万人近くに達した。茨城県ひたちなか市から来た高専1年の工藤広樹さん(16)は、読むと力が湧く作品だったという「僕にとっ

で、心の募りのような漫画でした」と嘆息した。亀有では90年代、元気をなくした商店街を強力に後押ししてくれたのが秋本さんだったという。「こち亀」の登場人物の像が町のあちこちに立ち、亀有駅周辺は人気観光地に育った。相葉書店 葛飾伊勢原店 主の佐藤尚典さん(51)は、16日に秋本さんが立ち寄り「悪しうないで、両さんは、お祭りが好きなんだから」と贈り物してくれたと明か

「寂しい」「お疲れさま」

「両さんが毎回、現実ではできないような奇想天外なことをやってくれるのが好きだった」。魅力を力説したのは松江市竹矢町、鳥根県立大学短期大学部1年の永岡幹さん(20)。「家族みんながファンだった。終わるのは寂しいし、残念だ」と目を落とした。同市下佐野町のアルバイ



# 「全日本語りの祭り」を終えて

＜酒井 眞美＞

NPO法人・全日本語りの義援金が贈られた。ネットワーク主催の「初日の全体会は、記念第13回全日本語りの祭り講演としてまづラフカデりin松江が終わった。4日から3日間、北海道 凡・島根県立大教授の集めて松江玉湯町のホテルを会場に行われた。キャッチフレーズは「東日本大震災・熊本地震被災地の復興を願って」語りは絆」であり、本会から両地区に10万円ずつ

## 友情育み連合会を組織

「小泉八雲と語りの世界」(出雲かんべの里)、佐た。治谷話「だんごを有本喜美男さん(さじ民話会)、分科会を持ったが、開催使ったパワーポイントで「銭はものを言う」を岡地の特徴を出すべく、「八雲の生い立ちや民話に村瀬江さん(同)、「蟹雲の部屋」「古事記と神話の世界」「山陰の民話」田中整・島根大名のふんどし」を谷口富美子さん(同)が語り、会場を和ませた。出雲かんべの里子ども語りとして「鬼は外、福は内由來」

講義。最後に私が「野間義を村川立実君(松江一中学とわらべ歌」と題して1年)、「こぶ取りしい元禄時代のわらべ歌とそさん」を渡部美咲さんつくりな歌について、明(東出雲中1年)が語った。治生まれの古老の録音をたが、堂々と語る姿に、再生しながら紹介した。素晴らしい、心が洗われが、三者三様の内容は多たど好評だった。夜は5加者には好評だった。会場に分かれて「誰でも語りでは「あめ買い幽語り場」として自由に立「霊」を細田多美子さん候補して語る機会を持っ



松江玉湯町玉造、ホテル玉泉 (撮影・吉川舞一氏)

高須御千江子さんによる舞踊が行われたが、大蛇は定着している悪い存在ではなく、人々が自然を破壊するのを怒る神的存在として、大胆で新しいの装束で、鈴を振るなど

しながら語っていた。他(益田市)、おき民話の分科会の紙芝居など、会(隠岐の島町)が、こいわゆる素朴に民話を語るスタイルから離れた多様な語りが随所で展開されたのも、今後の語りの在り方を示唆するものとして印象づけられた。山陰西県からの参加者も多く、島根県33人、鳥取県20人を数えたが、他県からの参加者と同室で、真夜中まで話し合い親しくなったり、以前の会を喜び合ったりと、一層の友情を育んだ3日間であった。特筆すれば、島根県内の民話語りの4グループ、とんと昔のお話会(松江・出雲かんべの里)、いずも民話の会(出雲市)、民話の会「石見」

松江玉湯町玉造、ホテル玉泉 (撮影・吉川舞一氏)



# 地元の幸使い「松江ほうとう」

## シジミやイノシシ、みそ

### 県立短大生考案 商品化へ試食会

松江



松江ほうとうを盛りつける短大生

宍道湖産のシジミをはじめ、松江市産のイノシシ、みそなどの食材をふんだんに使い、県立短大短期大学の学生が考案した「松江ほうとう」の試作品が完成した。市やJAしまねくにびき地区本部など官民で地元食材の積極的な活用を目指す「まつえ農水商工連携事業」の一環で、8月から取り組んでいた。26日に市内で試食会があり、あっさりとした中に甘味が広がる味に、関係者も舌鼓を打った。今後改良を重ね、商品化していく。

(曾田元気)

メニューを考案したのは、健康栄養学科の籠橋有紀子准教授の研究室で学ぶ2年の小田桐舞子さん(19)と平井美穂さん(20)。

ほうとうは小麦粉で練った麺を野菜と一緒にみそ仕立てのスープで煮込んだ山梨県の郷土料理で、武田信玄が陣中食としたとも言われる。

2人はともに広島県出身で、松江の食材として、内外に広く知られている宍道湖産のシジミに着目。

ほうとうには、米粉麺のほか、八雲町のイノシシや玉湯町のみそ、宍道町の粟などを使用中で、イノシシの肉のうま味を引き出すため、だしのベースにシジミを活用することを考え出した。

同市西川津町のJAしまねくにびき地区本部であった試食会では関係者20人が参加。お代わりする場面も見られた。

麺は、今後稲刈りが行われる宍道地区の水田で収穫された米を使い、販売はくにびき地区本部が担う予定。小田桐さんと平井さんは「県外などたくさんの人に食べてほしい」と期待した。

平成 28 年 9 月 28 日付・山陰中央新報

### 小泉八雲記念館夜間イベント

## 怪談まつわる音楽や朗読

来月4日間

10月の1カ月間、松江城周辺をあんどんで照らす松江水燈路に合わせて、小泉八雲記念館(松江市奥谷町)が、怪談にまつわる夜間イベントを開催する。1、22、23、29日の、いずれも午後7時から同館で行われ、音楽や読み聞かせを通して八雲の世界観を楽しむことが

1日は「英語de怪談ナイト」。9月25日に市総合文化センター(松江市西津田6丁目)で開かれた「へルン」をたたえる青少年スピ

クス番号0852(52) 4708。問い合わせは代務局に、名前、住所、電話番号をファクスする。ファクス番号0852(24)9385。

「チコンテスト」に出場した中高生が、作品を英語で披露する。10月22日は、松江で結成された音楽グループ「ミュージック・ド・ヘルン」が、八雲が感じた世界を朗読と音楽で表現する。

23、29の両日は、県立短期大学部松江キャンパス(松江市浜乃木7丁目)の学生が読み聞かせを行う「おはなしレストラン」で、作品を音読する。

すべて参加無料。定員は30人で、申し込みが必要。問い合わせは同館、電話0852(21)2147。同館は、10月の土、日曜日、祝日と7日の開館時間を午後9時まで延長する。

平成 28 年 9 月 30 日付・山陰中央新報



# Q

## 子どもの夜泣きについて

子どもの夜泣きがひどくて困っています。どうしたらいいでしょうか？

\*回答者\*

前林 英貴さん

島根県立大学短期大学部松江キャンパス  
保育学科 小児保健学研究室  
088522265525(代表)



育児中の母親からの相談が多い「夜泣き」は、一生治らないものではないですが、睡眠不足が続いてしまうと母親の身体的・精神的負担は大きなものになります。「夜泣き」とは、これといった原因もなしに毎晩のように決まって泣き出すことと定義されています。

す。多くは乳幼児期にみられる生理的現象だと言われていますが、欧米では睡眠障害として考えられています。子どもは大人と比べると、眠りの浅いレム睡眠が長いのが特徴ですが、この夜泣きがひどく、あやしても泣き止まない場合には、「何か子どもに異常がある

のでは」と心配をして夜間に救急外来に駆け込む親御さんも少なくありません。

### 夜泣きの原因は

夜泣きの原因は、身体的要因と心理的要因に分けることができます。身体的要因では、空腹や騒音、おむつの不快感や着せすぎによる暑さなどがあります。心理的要因では、昼夜の取り違え、就寝前の興奮など、親御さんの生活習慣が関係していることもあるので注意が必要です。また、日中の運動不足や午後3時以降の昼寝なども影響すると言われています。

### 夜泣きの改善策は

指や掛け物の端をしゃぶったり、お気に入りのタオルやぬいぐる

るみを離さない子どもには、そういった眠りの癖を利用するとよいでしょう。また、昼間によく遊ばせたり、昼寝の時間や回数を少し減らす、寝る前の入浴なども効果的です。寝室の照明は、顔色が見られる程度に暗くする方が子どもは安心して寝ることが出来ます。抱き癖を心配して、泣いている子どもを抱っこすべきか悩む親御さんも多いですが、泣く子を放置することもにより「サイレントベビー」という表情や感情の欠如したコミュニケーション障害になる子どもが近年問題視されています。抱き癖を心配せずに、愛情をたくさん注いであげましょう。

